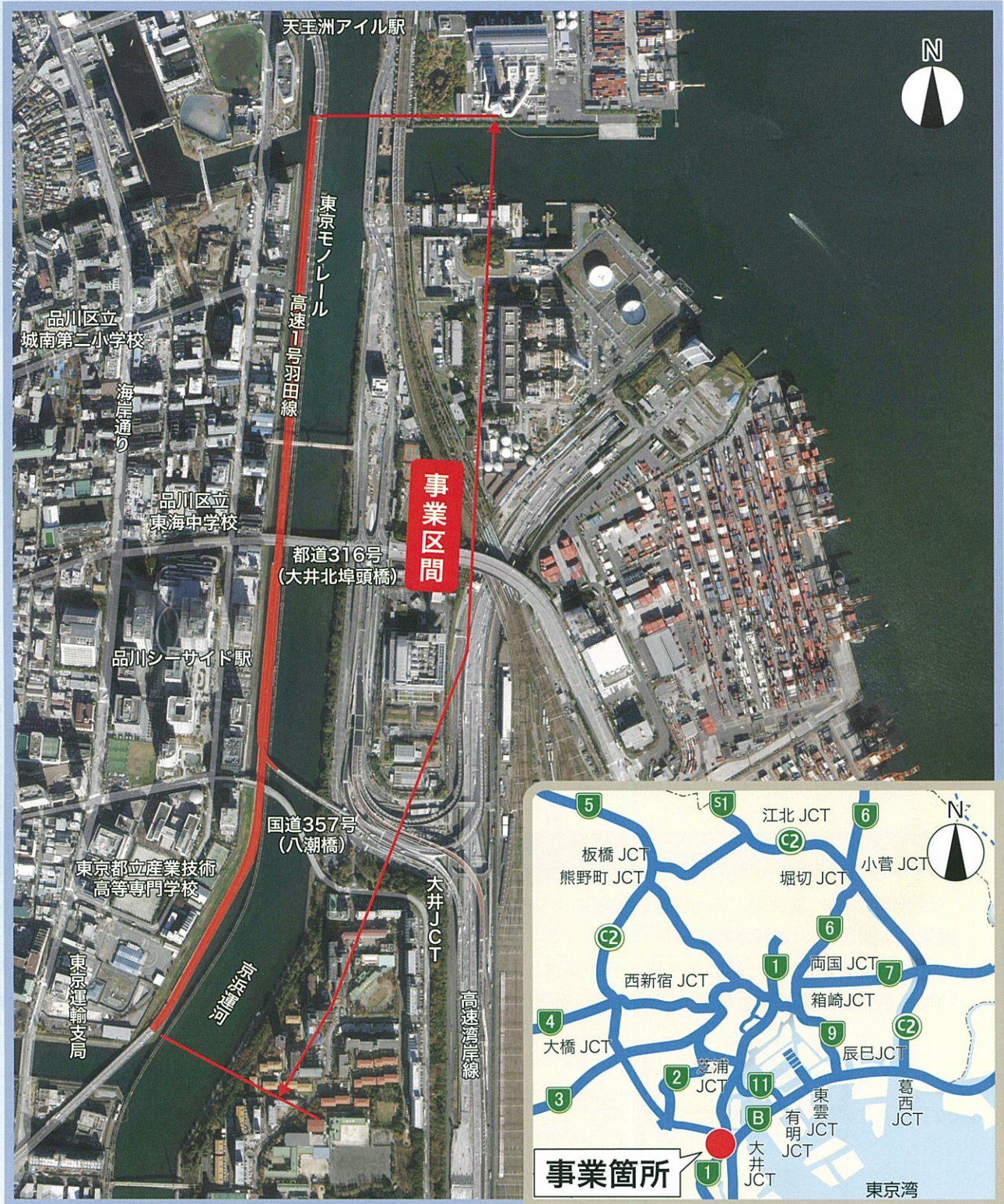


高速1号羽田線

東品川棧橋・鮫洲埋立部

更新事業の概要



■ 事業目的

高速1号羽田線(東品川栈橋・鮫洲埋立部)は、昭和39年の東京オリンピック開催等の社会的要請から、用地買収が必要ない海上部に建設され、昭和38年の開通から50年が経過しました。

日々、点検・補修を行っていますが、過酷な使用状況や激しい腐食環境などから、コンクリートの剥離や鉄筋の腐食等の損傷が多数発生しており、長期的な安全性を確保する観点から、構造物の更新(造り替え)が必要となっています。

事業区間 : 品川区東品川2丁目～東京都品川区東大井1丁目

延長 : 約1.9km

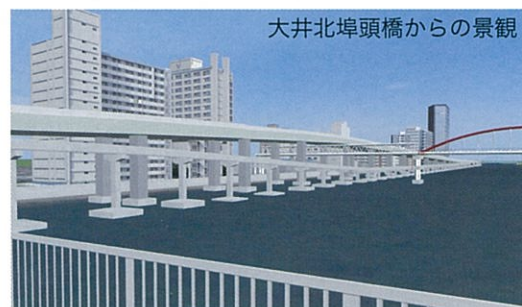
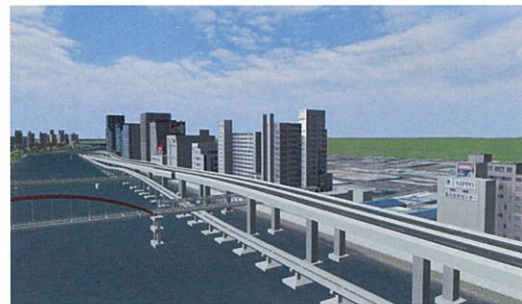
道路の区分 : 第2種第2級(道路構造令)

設計速度 : 60 km/h

車線数 : 4車線

完成予定時期 : 平成38年度

※高速1号羽田線の更新(造り替え)に伴い高速湾岸線大井JCT(約0.5km)の更新(造り替え)を行います。



大井北埠頭橋からの景観

完成イメージ

東品川栈橋

東品川栈橋は、橋桁と海水面との空間が極めて狭く、点検・補修が非常に困難な上、構造物の高齢化とともに、海水の影響を受けて、コンクリート剥離や鉄筋の腐食等の重大な損傷が多数発生しています。



海水面に近いため、日常の維持管理が困難

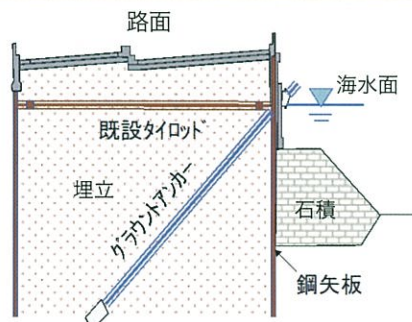


損傷状況(コンクリート剥離・鉄筋の腐食)

鮫洲埋立部

鮫洲埋立部は、京浜運河の一部を鋼矢板により締め切り、埋立をした後に、タイロッドと呼ばれる鋼材を用いて鋼矢板を固定して、建設されました。

海水の影響により、一部のタイロッドが腐食して破断し、鋼矢板が外側に押し出されたために、路面のひび割れ等の重大な損傷が発生しています。なお、当面の対応としてグラウンドアンカーによる補強を行っています。



現在の鮫洲埋立部の道路構造



損傷状況(路面のひび割れ)

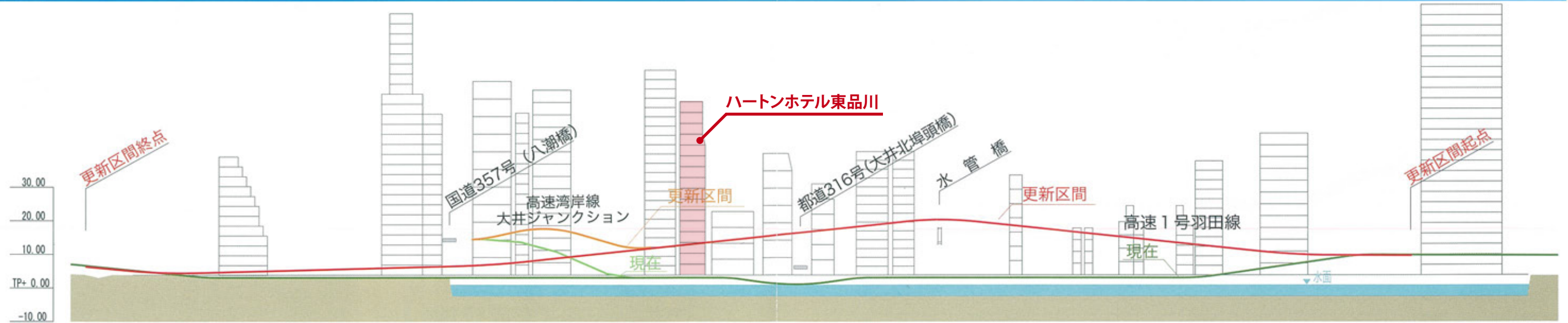
事業内容

本事業は、高速1号羽田線の長期的な耐久性や将来の維持管理性を確保するため、海水面や交差構造物（一般道等）並びに並行する東京モノレールから一定の離隔を確保した位置に造り替えます。また、造り替えにあたっては、走行安全性の向上のため、道路の幅員を17mから18.2mに変更します。

平面図

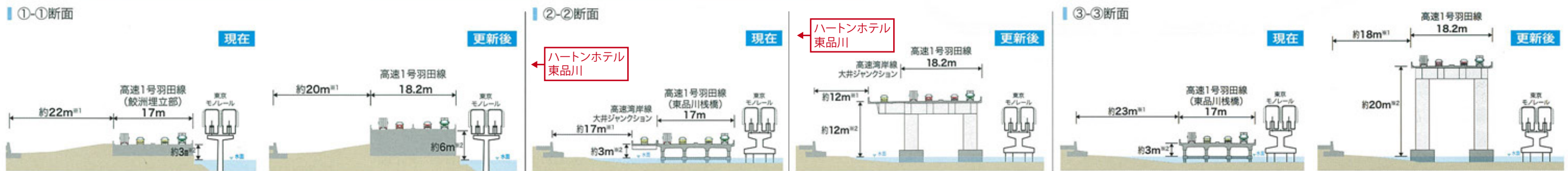


縦断面図



※ 縦断面図は縦横比を3：1に変えており、高さは東京湾の平均的な海面高さ（TP+0.0m）を基準として表示しています。なお、建物及び建物高さはイメージです。

断面図

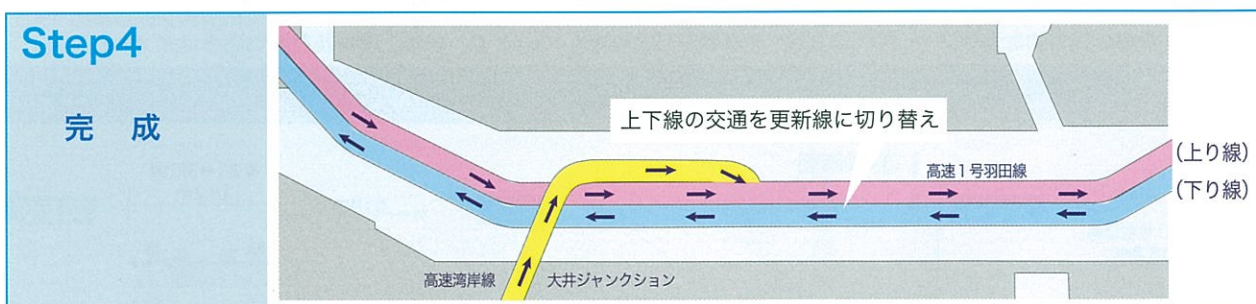
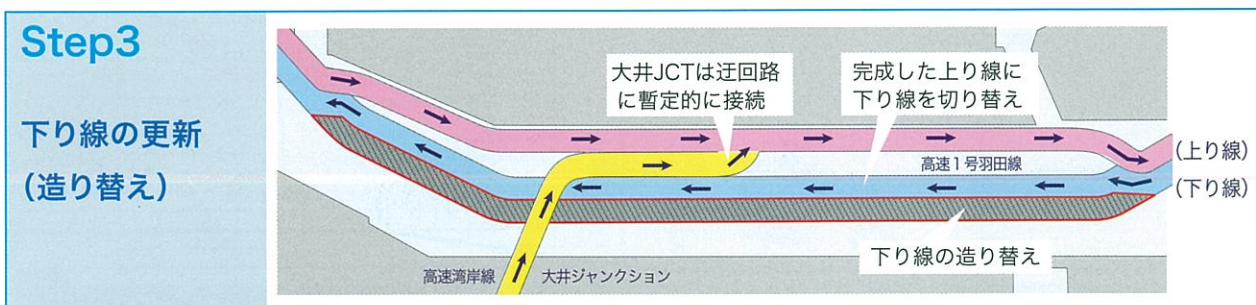
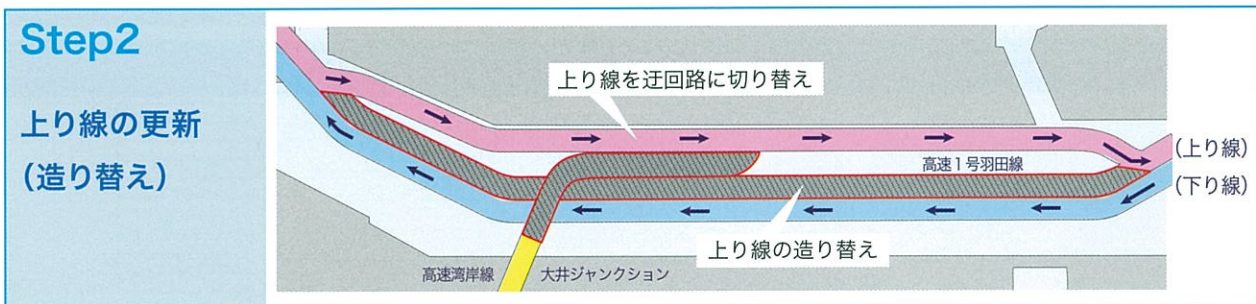
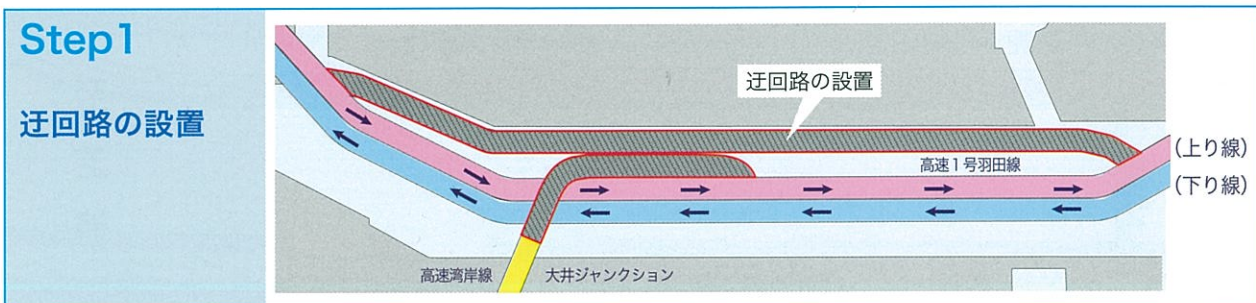
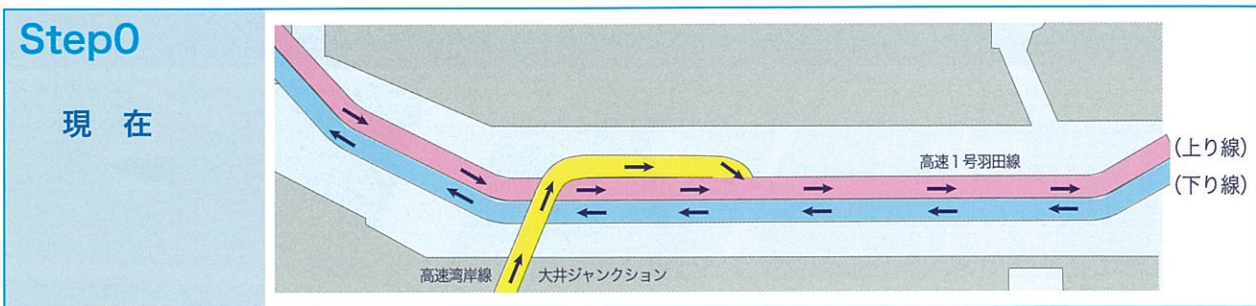


※ 1 道路端から護岸までの距離 ※ 2 東京湾の平均的な海面高さ（TP+0.0m）から道路路面までの高さ

■ 施工計画について

高速1号羽田線の交通流を確保しながら事業を進めるため、迂回路を設置いたします。

施工ステップ (イメージ)



- 凡例
- : 施工箇所
 - : 高速1号羽田線(上り線)
 - : 高速1号羽田線(下り線)
 - : 高速湾岸線(大井ジャンクション)

■ 環境対策

遮音壁の設置、高機能舗装の採用により、自動車の交通騒音の低減を図ります。

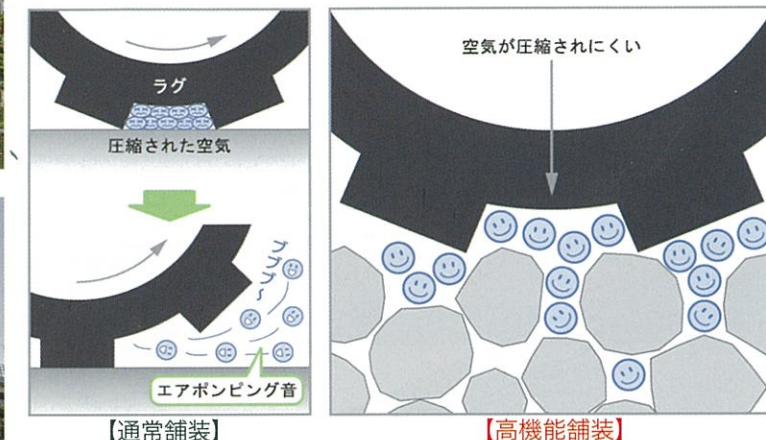
遮音壁の設置事例



高機能舗装の仕組み

高機能舗装は、一般の舗装よりもたくさんの隙間ができるように工夫された舗装です。

これにより、車のタイヤと路面との間の空気が舗装の隙間に逃げられるため、エアポンピング音が生じにくくなります。



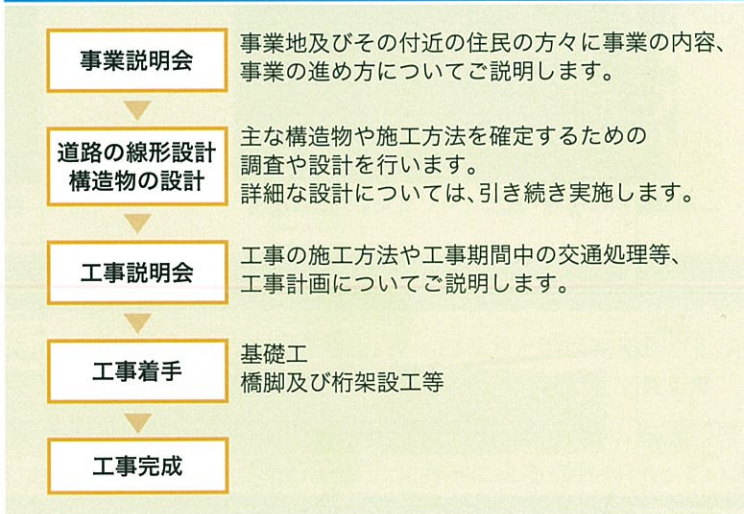
※ 出典:「漫画で学ぶ舗装工学」建設図書 一部標記を変更して記載

■ 事業手続き

首都高速1号線都市計画手続

首都高速1号線 (本区間) 開通	昭和38年12月21日
都市計画(変更) 決定	平成26年12月18日
都市計画 事業認可	平成27年2月18日

事業の流れ



お問い合わせ先



首都高速道路株式会社
東京西局プロジェクト本部

計画について	工事について
プロジェクト調査・環境課 TEL: 03-5434-7804 〒141-0032 東京都品川区大崎1-6-3 受付時間(平日) 10:00~17:00	品川工事事務所 TEL: 03-3779-5106 〒141-0032 東京都品川区大崎5-4-3 ONOビル 2階 受付時間(平日) 10:00~17:00

ホームページは [首都高更新](#) <http://www.shutoko.co.jp/company/enterprise/road/plan/>

このパンフレットは再生紙を使用しています。
発行月: 2015年11月